

高野岩三郎のプロフィールを検証したら『かっぱの屁』が登場！

奥積 雅彦（総務省統計研究研修所教官）

【はじめに】

統計図書館コラム【人物編】No.0011 の執筆に際し、高野岩三郎先生のプロフィールを調べました。当時、身近なところで統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」（統計年表）に掲載の高野岩三郎のプロフィール¹を参考に（正確に言うと、鵜呑みにしました）、「1914 年には「東京における 20 職工家計調査」…を実施…」としましたが、同コラム公開後、当該調査の実施年次が資料によって微妙に異なっていることがわかりました。本稿では、「東京における 20 職工家計調査」の実施年次について、検証してみましたので、その概略を紹介します。

【「東京における 20 職工家計調査」とは】

総務省統計局HP「家計調査のしくみと見方」のサイトによれば、家計調査の前史として「明治後半より、我が国の産業革命が進展するに伴い、いろいろな社会・経済問題が発生し、そのなかで貧民の救済や労働問題に対する関心が高まりました。そこで、まず国民生活の実態をつかむことの必要性が痛感され各種の生活実情調査が行われました。中でも、大正5年に高野岩三郎が主宰して実施した「東京ニ於ケル二十職工家計調査」は最初の近代的家計調査ともいえるもので、このときに初めて家計簿に世帯自身が記入する自計申告方式が採用されました。」とあり、同サイトによれば、調査世帯数が20と規模も小さく、調査期間も、1か月という短期間でした。ただ、この調査は、近代的家計調査のわが国における嚆矢ともいわれているようです。

高野岩三郎は、その後（大正7年^{1918年}から大正9年にかけて、「月島調査」と呼ばれる東京・月島の住民を対象にした社会調査が行われました。正式には「東京市京橋区月島に於ける実地調査」といい、当時の内務省衛生局に設けられた保健衛生調査会を母体に、それまで行われていなかった都市における衛生状態調査の試みとして行われたものです。この調査は、単に保健衛生調査にとどまらず、社会生活殊に大都会の労働者生活の調査として、家計についても調査していました。²

ちなみに、政府が全国的規模で家計調査を開始したのは、大正15年（1926年）になります。

【「東京における 20 職工家計調査」の実施年】

「東京における 20 職工家計調査」の実施年についての記述のある資料（閲覧可能な資料）を例示すると別表のとおりです。

当該調査の実施年は、大正3年（1914年）とするものと、大正5年（1916年）とするものがあり、前掲のコラム公開後、改めて検証したところ、高野先生が執筆した文献と高野先生が編集に関与した文献に所収の情報に出会い、これらの文献の書きぶりから、当該調査の実施年は、大正5年（1916年）とみられます、（別表中 でマークした文献参照）。

したがって、当該コラムにおける高野岩三郎先生のプロフィールを次のとおり修正しました。

修正前	1914 年には「東京における 20 職工家計調査」…を実施…
修正後	1916 年には「東京における 20 職工家計調査」…を実施…

【雑感】

「東京における 20 職工家計調査」の実施年については、前述のとおり大正5年（1916年）とみられますが、年譜をとりまとめた二つの文献（『かっぱの屁：遺稿集』（1961年）（高野岩三郎先生略年譜あり）、大島清 著『高野岩三郎伝』（年譜あり）（1968年）で、いずれも、その年譜において大正3年（1914年）とされ、これを裏付け得る資料は、調べた限りでは、判然としませんでした。ただ、今回の調べ物の過程で、改めて高野岩三郎先生の功績を目の当たりにすることができました。また、調べ物において関係文献について問題意識を持って横断的に精読することも有意義であると感じました。流し読みでは、おおまかな流れを俯瞰できるメリットがある一方で、コアな部分をスルーしがちになるおそれもあると感じました…。

また、『かっぱの屁：遺稿集』については、そのタイトルに衝撃を覚えました。同書の「はしがき」には、先生に随想集の表題を相談したところ、そのタイトルが提案されたようです。ただ、タイトルの具体的な由来については詳らかにされていませんでした。なので、タイトルについては、字義どおり「容易で何でもなしこと、取るに足りないことのたとえ」と解し、それをどう感じるかは読者に任されていると感じました。

「東京における 20 職工家計調査」の実施年について、前掲のコラムの執筆に際し、安易に身近なところにある公的機関の提供する統計学習サイトの情報を鵜呑みにしたことを高野先生が知ったら、まさに「かっぱの屁」（筆者が愚かすぎて取るに足りないこと。）と笑われるかもしれません（筆者の低性能な脳内のCPUにおける身勝手な想像に基づくものです。）。

いずれにしても、今回、自己チェックの甘さを露呈させるとともに己の器の小ささを自覚し、反省する幸せを感じました…。

¹ 当時のサイトは、国立国会図書館インターネット資料収集保存事業（WARP）により保存された 2018 年 6 月 1 日現在の統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」（統計年表）で閲覧可能。

https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11109954/www.stat.go.jp/koukou/trivia/h_1800.html#jinbutsu029（高野岩三郎のプロフィール）

² 法政大学HP Vol. 38 法政大学大原社会問題研究所所蔵資料「月島調査」の家計簿式調査原本（参照 2023 年 9 月上旬）

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaivo/daigaku_shi/museum/2011/120223/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54

※インターネットで閲覧可能な「月島調査」の実施年次については、補論参照。

別表「東京における 20 職工家計調査」の実施年

⇒大正3年（1914 年）とするものと、大正5年（1916 年）とするものがあります。

文献等	年次	記事																		
高野岩三郎「東京ニ於ケル二十職工家計調査」(河津暹 編『金井教授在職二十五年記念最近社会政策』所収)(1916 年) ³		労働者団体たる友愛会の会長鈴木文治君に諮り、熱心なる賛成を得、其の結果 大正三年 四月二十七日余は友愛会幹部修養会に臨み、家計調査の重要及び方法を演術し会員援助を依頼せり。…且調査期間は五月を以て適当とすとの同会会員の意見に従い、之を採用することとせり。但やむを得ざる場合には五月一日以降を持って記入の始期と為すを妨げず、此の場合にも満一ヶ月に亘りて記入を継続すべきものとせり。…																		
高野岩三郎 編「本邦社会統計論」(権田保之助「本邦家計調査」)(『経済学全集』第 52 卷)(昭和 8 年 ^{1933 年}) ⁴		(大正期に実施された家計調査の一覧) <table><tr><td></td><td>(調査名)</td><td>(年)</td><td>(月)</td><td>(期間)</td><td>(調査様式)</td></tr><tr><td>一</td><td>高野博士の東京に於ける二十職工家計調査</td><td>大正三年</td><td>五月</td><td>一ヶ月</td><td>家計簿式</td></tr><tr><td>...</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>		(調査名)	(年)	(月)	(期間)	(調査様式)	一	高野博士の東京に於ける二十職工家計調査	大正三年	五月	一ヶ月	家計簿式	...					
	(調査名)	(年)	(月)	(期間)	(調査様式)															
一	高野博士の東京に於ける二十職工家計調査	大正三年	五月	一ヶ月	家計簿式															
...																				
日本統計研究所『わが国統計調査の体系：家計調査の発達』(1959.年) ⁵		高野岩三郎博士が、 大正五年 五月に行った「東京における二〇職工家計調査」は近代的家計調査のわが国における嚆矢であった。																		
高野岩三郎 著 ほか『かっぱの尻：遺稿集』(1961 年)(高野岩三郎先生略年譜) ⁶	大正三年 (1914 年)	…五月、「東京に於ける二〇職工家計調査」を立案、実施す。これは近代的家計調査のわが国における嚆矢である。																		
鮫島龍行「日本統計調査文献史一ひとつの素描」(『統計局研究彙報』(12)所収)(1963 年) ⁷		家計簿記帳による近代的家計調査は 大正五年 の高野岩三郎「東京に於ける 20 職工家計調査」以来、異常な流行現象を呈したが、…																		
大島清 著『高野岩三郎伝』(高野岩三郎年譜) (1968 年) ⁸	大正三年 (1914 年)	…「東京ニ於ケル二十職工家計調査」および「東京および付近小学校教員家計調査」を立案、実施する。…																		
鮫島龍行・相原茂「統計日本経済一経済発展を通して見た日本統計史一」(筑摩書房『経済学全集』28 所収)(1971 年) ⁹		(近代的家計調査の発端>「東京ニ於ケル二十職工家計調査」) 大正五年 5 月、1 か月間にわたって高野岩三郎が実施したこの標本数わずかに 20 という極小規模調査が、日本における近代的家計調査の範例となった。…																		
統計局・統計センター百二十年史 第三章第八節 (家計調査) (平成 4 年 ^{1992 年}) ¹⁰		大正五年 、高野岩三郎が実施した「東京ニ於ケル二十職工家計調査」が我が国で最初の家計簿による家計調査であったが、その後も公私各機関により多くの家計調査が行われた。…																		
総務省統計局HP「家計調査のしくみと見方」(平成 17 年 ^{2005 年}) ¹¹		…中でも、 大正五年 に高野岩三郎が主宰して実施した「東京ニ於ケル二十職工家計調査」は最初近代的家計調査ともいえるもので、このときに初めて家計簿に世帯自身が記入する自計申告方式が採用されました。																		
島村史郎『日本統計史群像』(平成 21 年 ^{2009 年}) (第 15 章 高野岩三郎と中央統計委員会)		…高野の多彩な活動のうち、統計に関する業績について見ると、次のことが挙げられる。 ②社会調査の実施 「東京における 20 職工家計調査」(1914)、「月島調査」(1918) などの実施。																		
2018 年(平成 30 年) 6 月 1 日現在の統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」(統計年表)に掲載の高野岩三郎のプロフィール ¹²	1914 年	には「東京における 20 職工家計調査」、1918 年には「月島調査」などの社会調査を実施… *【筆者コメント】参考文献として、前掲の『日本統計史群像』が挙げられている。																		
総務省統計局HP>統計 150 年の軌跡をたどる>統計の偉人たち (高野岩三郎) (令和 3 年 ^{2021 年}) ¹³		…社会調査としての「東京における 20 職工家計調査」(大正五年)などを自ら実施したほか、中央統計委員会での数々の提言、意見など、戦前戦後の統計行政や統計調査の改善と確立に貢献しました。…																		

参照 2023 年 9 月上旬)

³ 高野岩三郎「東京ニ於ケル二十職工家計調査」
<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/2386086/1/278> (国立国会図書館デジタルコレクション(国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

⁴ 高野岩三郎 編「本邦社会統計論」(権田保之助「本邦家計調査」)
<https://dl.ndl.go.jp/pid/1188076/1/12> (国立国会図書館デジタルコレクション(国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

⁵ 日本統計研究所『わが国統計調査の体系：家計調査の発達』
<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/9524750/1/13> (国立国会図書館デジタルコレクション(国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

⁶ 高野岩三郎 著 ほか『かっぱの尻：遺稿集』
<https://dl.ndl.go.jp/pid/2980499/1/201> (国立国会図書館デジタルコレクション(国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

⁷ 鮫島龍行「日本統計調査文献史一ひとつの素描」
<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/2780822/1/21> (国立国会図書館デジタルコレクション (国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

⁸ 大島清 著『高野岩三郎伝』(高野岩三郎年譜)
<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/2974430/1/238> (国立国会図書館デジタルコレクション(国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

⁹ 鮫島龍行・相原茂「統計日本経済一経済発展を通してみた日本統計史一」
<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/3010618/1/69> (国立国会図書館デジタルコレクション (国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

¹⁰ 統計局・統計センター百二十年史 (第三章第八節 (家計調査) 57 頁) 総務省統計図書館で閲覧可能
<https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/12658379> (国立国会図書館デジタルコレクション (国立国会図書館内限定)) でも閲覧可能

¹¹ 総務省統計局HP「家計調査のしくみと見方」
<https://www.stat.go.jp/data/kakei/10.html> (第 6 家計調査の歴史 <https://www.stat.go.jp/data/kakei/pdf/mikata7.pdf> (PDF: 37KB))

¹² 国立国会図書館インターネット資料収集保存事業 (WARP) により保存された 2018 年 6 月 1 日現在の統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」(統計年表)に掲載の高野岩三郎のプロフィール
https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11109954/www.stat.go.jp/koukou/trivia/h_1800.html#jinbutsu029

¹³ 総務省統計局HP>統計 150 年の軌跡をたどる>統計の偉人たち (高野岩三郎)
<https://www.stat.go.jp/museum/toukei150/jin/jin07.html>

補論「月島調査」の実施年次について

月島調査の実施年次については、大正7年(1918年)とするものや大正8年(1919年)とするものなどがありました。「月島調査」の実施年についての記述のある資料（閲覧可能な資料）を例示すると次のとおりです。これらの資料から、実施年次を大正7年(1918年)とするものは調査準備期を起点としていて、実施年次を大正8年(1919年)とするものは調査実施期を起点としていることが分かりました。

文献等	年次	記事
高野岩三郎 編「本邦社会統計論」(権田保之助「本邦家計調査」)(『経済学全集』第52巻)(昭和8年 ^{1933年}) ¹⁴	(大正期に実施された家計調査の一覧)	
	(調査名)	(年) (月) (期間) (調査様式)
	...	
	三 高野博士の月島労働者家計調査	大正八 一月～ 一ケ年 家計簿式
	...	
	(『高野博士の月島労働者家計調査』の実施調査案)	
	(五)調査期間 大正八年一月より十二月まで一年間(但し準備として大正七年十一月より家計簿の記入を開始し、大正九年一月に至って終結した。)	
内務省衛生局 編 ほか『月島調査』(1970) ¹⁵	(総説>調査の由来及び計画) ・・・大正七年十一月及び十二月は・・・調査準備期である。次の大正八年より大正九年夏に至るまでは主として調査実施期である。・・・	
日本統計研究所『わが国統計調査の体系：家計調査の発達』(1959年) ¹⁶	(主要調査の概要) 高野博士の月島労働者家計調査 調査期間 大正八年一月より十二月までの一か年(但し準備として大正七年十一月より家計簿の記入を開始し、大正九年一月に至って終結した)	
高野岩三郎 著 ほか『かっぱの尻：遺稿集』(1961年)(高野岩三郎先生略年譜) ¹⁷	(高野岩三郎先生略年譜) 大正六年(一九一七年) ・・・ この年、一か年にわたり「月島労働者家計調査」を実施す。	
大島清 著『高野岩三郎伝』(年譜)(1968年) ¹⁸	大正七年 (1918年)	(高野岩三郎年譜) 一〇月二日 保健衛生調査会、労働者調査にかんする高野案を採決。 一月初め 調査所を月島に設置して調査を開始する。
島村史郎『日本統計史群像』(平成21年 ^{2009年}) (第15章 高野岩三郎と中央統計委員会)	・・・高野の多彩な活動のうち、統計に関する業績について見ると、次のことが挙げられる。 ②社会調査の実施 「東京における20職工家計調査」(1914)、「月島調査」(1918)などの実施。	
法政大学HP 広報誌「HOSEI」掲載「HOSEI MUSEUM」Vol.38 法政大学大原社会問題研究所所蔵資料 「月島調査」の家計簿式調査原本(2012年02月23日) ¹⁹	1918(大正7)年から1920(同9)年にかけて、「月島調査」と呼ばれる東京・月島の住民を対象にした・・・社会調査が行われました。・・・	
2018年(平成30年)6月1日現在の統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」(統計年表)に掲載の高野岩三郎のプロフィール ²⁰	1914年には「東京における20職工家計調査」、1918年には「月島調査」などの社会調査を実施・・・ *【筆者コメント】参考文献として、前掲の『日本統計史群像』が挙げられている。	

(参照 2023年9月上旬)

【余談】筆者は、「月島調査」の実施年次についても、『かっぱの尻：遺稿集』に悩まされることになりました・・・

【あとがき】前掲の「東京における20職工家計調査」は、調査世帯数が20と規模も小さく、調査期間も1か月という短期間でした。一方、「月島調査」は、家計簿記載が12か月(このほか練習期間1か月)で、これに応募したのは72世帯でした。ところが、記帳を辞退する世帯が続出し、家計簿を12か月記載したのは、2世帯に過ぎなかったそうです。このため、記帳世帯を逐次補充し、結局、集計40世帯の1世帯1か月の平均家計費は、各費目の総額を記載延べ月数で割って求めたようです。また、当時は、スペイン風邪が猛威を振ったことも少なからず影響したものとみられます。被調査世帯の人を始め、当時の関係者の労苦が想像できます。【参考資料】日本統計協会『統計』28(10)(1977-10)、前掲の『高野岩三郎伝』87コマ/111頁)

14 高野岩三郎 編「本邦社会統計論」(権田保之助「本邦家計調査」)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1188076/1/12>

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1188076/1/15>

(国立国会図書館デジタルコレクション(国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

15 内務省衛生局 編 ほか『月島調査』

<https://dl.ndl.go.jp/pid/12196901/1/34> (国立国会図書館デジタルコレクション(国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

16 日本統計研究所『わが国統計調査の体系：家計調査の発達』

<https://dl.ndl.go.jp/pid/9524750/1/16> (国立国会図書館デジタルコレクション(国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

17 高野岩三郎 著 ほか『かっぱの尻：遺稿集』

<https://dl.ndl.go.jp/pid/2980499/1/201> (国立国会図書館デジタルコレクション(国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

18 大島清 著『高野岩三郎伝』

<https://dl.ndl.go.jp/pid/2974430/1/238> (国立国会図書館デジタルコレクション(国立国会図書館内/図書館・個人送信限定))

19 法政大学HP Vol.38 法政大学大原社会問題研究所所蔵資料「月島調査」の家計簿式調査原本 (参照 2023年9月上旬)

https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaivo/daigaku_shi/museum/2011/120223/?auth=9abbb458a78210eb174f4bdd385bcf54

20 国立国会図書館インターネット資料収集保存事業(WARP)により保存された2018年6月1日現在の統計学習サイト「なるほど統計学園高等部」(統計年表)に掲載の高野岩三郎のプロフィール

https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11109954/www.stat.go.jp/koukou/trivia/h_1800.html#jinbutsu029